

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：32720

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04646

研究課題名（和文）保育者養成における「保育の評価」の獲得プロセスと学びの順序性の研究

研究課題名（英文）A study of the acquisition process and learning sequencing of 'ECEC assessment' in the training of ECEC teachers professionals

研究代表者

内藤 知美 (Naito, Tomomi)

田園調布学園大学・子ども未来学部・教授

研究者番号：10308330

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：「保育の評価」の獲得は、省察による保育者の専門性の向上につながる。保育者養成段階での「保育の評価」には実習体験が影響し、特に初期段階の実習体験は保育者のアイデンティティ形成に影響を与える。異なる実習体験は、子ども・保育者・保護者についての異なる視点の獲得を促すため学びの順序性が重要となる。ニュージーランドなどで行われる関係性に着目した形成的評価は有効である。多様な実習を通じた理論と実践の往還、カンファレンス等によって、プレ保育者が体験を言語化し他者の意見を尊重すること、また自己の感情理解と省察を促すメンタライゼーションの能力を育成することが、総合的な「保育の評価」の獲得につながる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、保育者の長期の成長を支える「保育の評価」の獲得のプロセスについて、保育者アイデンティティの起点となる養成段階に着目した研究であり、学術的意義がある。またこの研究成果は、保育者養成段階から現職段階への円滑した移行を促し、保育の質向上と保育者の早期離職を阻止する上で有効である。保育者養成における学びの順序性に基づく、実習の位置づけや教授方法のあり方などを海外の知見を踏まえて提案しており、今後の保育者養成カリキュラムの構築に寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：The acquisition of 'Early Childhood Education and Care assessment' leads to the improvement of the expertise of ECEC teachers through reflection. Practical training experiences have an impact on the 'assessment of ECEC' at the ECEC training stage, particularly in the early stages of training, which influences the identity formation of the ECEC teacher. Different practical training experiences encourage the acquisition of different perspectives on children, ECEC teachers and parents, so 'sequencing of learning' is important. Formative assessment focusing on 'relationships', as done in New Zealand and elsewhere, is effective. Theory and practice interchange through diverse practical training, conferences, etc., will lead to the acquisition of a comprehensive 'assessment of ECEC', as pre-ECEC teachers verbalize their experiences and respect the opinions of others, and develop mentoring skills to promote self-emotional understanding and reflection.

研究分野：Early Childhood Education and Care

キーワード：保育者養成 保育者の成長プロセス 保育の評価 学びの順序性 カンファレンス メンタライゼーション 実習体験

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本では、保育者の早期離職が社会的問題となる中、保育者養成・採用・現職の「円滑化」による保育者の長期の成長プロセスをサポートすることが課題とされる。そのためには、キャリアパスの明確化や保育者が葛藤・危機に向き合い主体的に問題解決に取り組む態度を育成することが必要である。保育者が専門性を高め、長期的な成長を追求し、保育者としてのアイデンティティを確立しようとする意欲・態度が、保育の質の向上にもつながる。

例えばニュージーランドでは、ラーニング・ストーリー (Learning Story) やアセスメント (Assessment) などによって、保育を観察、記録し、保育実践を評価する方法 (メソドロジー) が定着している。ラーニング・ストーリーやアセスメントは、「子ども」「保育者」「保護者」という保育を構成する3者の相互作用性や子どもの発達・成長における保育者の保育の意図や指導を「見える化」することで保育の質の向上を図っているとされるが、これらは、保育者が葛藤・危機に向き合った際に、自身の子どもの見方・枠組みを変え、保育者としてのあり方を再確認するという「保育者観」の形成を促し、保育者自身の変容、成長の契機を提供することにつながる。

保育者の「保育の評価」軸の獲得、特に長期の成長の起点にあたる養成段階のプレ保育者の「保育の評価」の獲得に関わる研究は、依然進んでいない。プレ保育者が保育者アイデンティティの形成過程において、保育の専門性、保育力量を省察し自己評価する「保育の評価」の視点を獲得することが、近年の急激な保育需要の高まりと進行する複雑化・多様化する保育現場において、長期的なキャリア形成と保育の質の向上に寄与すると考え、養成段階における「保育の評価」の獲得プロセスと学びの順序性に着目した。

2. 研究の目的

本研究は、養成段階からファーストステージ (初任・新任段階を指し、1~3年の保育経験者を対象とする) に至る保育者が葛藤・危機に直面し、その結果としての早期離職に陥ることを回避するために、保育者アイデンティティの確立に寄与する「保育の評価」の獲得のプロセスに焦点を当て、養成段階におけるカリキュラム、「学びの順序性」、教授方法を研究するものである。

長期的なキャリア形成の視点から、保育者の専門性 (保育技術・技量を含む) や就業意識に対して、プレ保育者が「保育の評価」の視点を獲得する契機に着目し、保育者としての成長への意欲を育てるカリキュラム、学びの順序性、教授方法のあり様を検討し、試案を示すことで、保育者の養成段階と現職段階の連携を図ることを目的とした。

3. 研究の方法

上記の研究目的に沿って、次の1)~4)を行った。

(1) 国内外の保育者の専門性の発達や「保育の評価」に関する先行研究の検討を行った。海外については、ニュージーランドのテファリキ、ラーニング・ストーリー、アセスメントおよび保育者養成カリキュラムの文献を検討した。

(2) プレ保育者である養成段階の学生の「保育の評価」についての調査を行った。プレ保育者の「保育の評価」獲得の契機となる実習に着目し、異なる保育フィールドでの実習体験による、「保育の評価」の獲得、評価の特徴、相違点や変容を明らかにした。

(3) ニュージーランドにおけるテファリキ、ラーニング・ストーリーやアセスメントの実態および長期の保育実習と「保育の評価」の獲得について、ニュージーランドのワイカト大学・マッセ大学 (オークランド校) や現地の幼稚園等の実地調査や実習生、保育者へのインタビュー調査を行った。

(4) 研究の中間報告およびまとめとして、国内学会では、日本保育学会、日本保育者養成教育学会において、国際学会では、OMEP (世界幼児教育・保育機構) において研究発表を行った。

4. 研究成果

(1) フィールドが異なる実習によるプレ保育者の「保育の評価」の獲得については、教育・保育実習では、保育者役割や子どもへの視点が明確になるが、保護者への視点に欠ける。子育て支援実習では保護者・親子への視点が明確となるが、子ども (単独) への視点に欠ける。両者を異なる実習ととらえる傾向があり、実習相互の関連性についての理解が弱い。

(2) 幼稚園実習、保育所実習より先に経験する実習を通してのプレ保育者 (4年制大学の初年次学生) による子どもの生活・遊び、保育者の役割、保育環境等の評価に関わるアンケート調査では、学生は保育者の役割と子どもの遊びや遊びを通した学びに注目するが、子どもと保育者の「関係性」への着目は見られず、いずれかの視点に偏る傾向がみられた。

初年次の学生は、遊びを通して、子どもの個性や違いを認め、多様な子ども観を持つが、その一方で、子どもとの体験の質によっては、子どもと関わることの「困難感」を抱く契機にもなる。「保育の評価」の形成プロセスにおいては、子どもの遊びや遊びを通した学びに着目できる場合は、保育に対する肯定的態度を育むことが示唆された。

(3) プレ保育者は、保育への意識や効力感が時系列的に変化し、実習の経験の深まりによって保育者モデルの獲得が促され、保育への意識が変化する。中でも保育現場での初期の実習は保育への意識や「保育の評価」の形成の基盤となる経験となる。子どもと関わることの困難感が養成段階の早い時期に定着しないためには、学生同士のカンファレンスが有効である。カンファレンスを通じて、共通の場を共有しつつ子ども理解がそれぞれ異なることへの気づき、子ども理解について発言することで自分の保育観を表明する(言語化する)機会になるなどの効果がある。

(4) 初年次の体験型実習と2年次の免許・資格に関わる実習での学びの実態と相違点について経年変化を分析した結果、免許・資格の実習では、子どもよりも保育者の視点の獲得、特に「保育者の声掛け」への注目が顕著となり、「クラス全体を見る保育者の役割」を評価する。「子どもを見守ること」への意識が減少し子どもの遊びや子ども目線で子どもを捉えるなどの視点も若干減少した。保育方法では「保育者の声掛け」など保育者の直接的な保育技術・技量が意識され、子どもの遊び、子どもの思いや願いといった子ども理解の内容への評価の視点が弱くなる。(図1 参照)

(5) ニュージーランドでの実地調査からは、ニュージーランドでは保育者には保育の専門家としての指針(Code)とスタンダードが示され、特に「社会、学び手、教育職、家族や拡大家族(whanau)」に対する責任の観点で保育者養成が行われており、保育者の目指すべき理念が示された上でカリキュラムが構築されている。また、保育者養成と現職教育の連携が強く、長期的な学びとその段階が示されているため、保育者の成長プロセスが捉えやすく、成長意欲に結びつきやすい。長期に行われる保育インターンシップを通じて、子どもの遊びや学びを日常的に観察でき、保育の評価の視点を獲得する上で有効である。加えて、ラーニング・ストーリーは、子どもと保育者の「関係性」に重点を置いて、保育の評価が行われている。また保育者と子どもの関係性を評価するための行為が、

noticing, recognising, responding, recording, revisiting, reflecting で示され、保育の評価の獲得に有効である。保育の評価(アセスメント)は、子どもの成長のプロセスを捉え、その成長・学びのプロセスに関わりつつ支援する「形成的アセスメント(Formative assessment)」の方法が用いられている。

(6) 「保育の評価」の形成には、「保育者効力感」が高まることが影響する。また「保育者効力感」には、他者の心を読み共感する力や自己の感情を理解、同定、内省するメンタライゼーション(mentalization)能力が関連する。自己や他者理解の能力は個人差が大きい。学生が保育への気づきや評価の視点を持てるように、指導・助言をすることが重要である。

(7) 「保育の評価」の獲得プロセスでは、保育の原理に関わる内容、例えば子どもの権利など「子どもへの学び」を初期段階に位置づけ、遊びを中心とした体験型実習や実習後のカンファレンスによって理論と実践を往還し、他者や自己への認知を高めるなど、学びの順序性を意識したカリキュラムの構築が必要である。また、子ども・保育者・保護者の「関係性」に着目し、総合的理解に基づいた保育の評価の形成を促す教授方法が有効である。

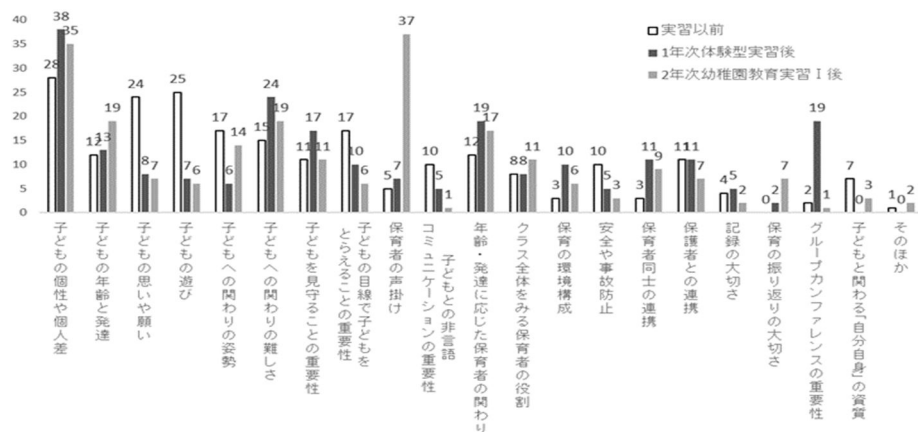


図1. 実習以前・体験型実習後・幼稚園教育実習 後の変化

< 引用/参考文献 >

- ・鈴木佐喜子.2017.ニュージーランド 「学びの物語」と保育の資質向上の取り組み。(泉千勢編.2017.なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか.ミネルヴァ書房) 239-264
- ・マーガレット・カー・大宮勇雄・鈴木佐喜子訳.2013.保育の現場で子どもの学びをアセスメントする.ひとなる書房.17-47/272-292
- ・谷島直樹.2022.ニュージーランドの保育園で働いてみた.ひとなる書房 12-47/132-157
- ・Deborah Fraser and Mary Hill.2012.The Professional Practice of Teaching in New Zealand 5th Edition. Gengage Learning.1-22/23-55
- ・Fred Korthagen and Ellen Nuijten.2022.The Power of Reflection in Teacher Education and Professional Development.Routledge
- ・Margaret Carr, Wendy Lee.2019.Learning Stories in Practice. SAGE.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 内藤知美	4. 巻 174
2. 論文標題 「子どもの権利条約」と保育実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 「発達」	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤知美	4. 巻 第602号
2. 論文標題 保育者の成長プロセスを探る ファーストステージの保育者の成長を支えるもの（1）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「キリスト教保育」	6. 最初と最後の頁 44-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤知美	4. 巻 第603号
2. 論文標題 保育者の成長プロセスを探る 自ら学び続けるために（2）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「キリスト教保育」	6. 最初と最後の頁 40 - 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田爪宏二・廣瀬真喜子・増田優子	4. 巻 第136号
2. 論文標題 保育者養成短期大学の学生における実習経験の印象に及ぼすメンタライゼーション能力の影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田爪宏二・廣瀬真喜子	4. 巻 第134号
2. 論文標題 保育者養成短期大学の学生における実習経験に対する保育者効力感の影響 実習の進行による変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 93-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 田爪宏二・廣瀬真喜子
2. 発表標題 保育者志望学生の認知的個人差と実習経験の印象との関連
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 内藤知美・横尾暁子
2. 発表標題 「保育の評価」に関わる視点の獲得 体験型実習と免許に関わる実習での学びと相違点-
3. 学会等名 日本保育者養成教育学会第5回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内藤知美
2. 発表標題 Learning process of the first-year experience in ECEC teacher training school
3. 学会等名 OMEP Asia Pacific Regional Conference 2019 in Kyoto (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣瀬真喜子・田爪宏二・又吉斉
2. 発表標題 Students' Recognition of SDGs at a Junior College of Childcare Worker and Kindergarten Teacher Training Course
3. 学会等名 OMEP Asia Pacific Regional Conference 2019 in Kyoto (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田爪宏二・廣瀬真喜子
2. 発表標題 保育者養成短期大学の学生のメンタライゼーション能力が就業意識に及ぼす影響 実習の進行に伴う変化
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤知美・横尾暁子
2. 発表標題 「保育の評価」に関わる視点の育成 初年次の実践的授業からの学びに着目して
3. 学会等名 第4回日本保育者養成教育学会研究大会(発表認定)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 内藤知美
2. 発表標題 教育・保育実習と子育て支援実習における学びの比較
3. 学会等名 日本保育学会第71回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤知美
2. 発表標題 Development of ECEC teacher's identity and professionalism in Japan -focusing on ECEC practical training and child-rearing support training-
3. 学会等名 OMEP 70th World Assembly and Conferences/Prague-Czech Republic (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田爪宏二・吉津晶子
2. 発表標題 “ Indirect support ” in intergenerational communication
3. 学会等名 OMEP 70th World Assembly and Conference/Prague-Czech Republic (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小泉裕子・佐藤康富・亀ヶ谷元謙・土井敬喜
2. 発表標題 保育の質を高めるヴィジブルな保育記録の提案～日本版ラーニング・ストーリーを目指して～
3. 学会等名 日本保育学会第71回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小泉裕子、内藤知美、井戸ゆかり、大野和男、田爪宏二、寺田清美、原孝成
2. 発表標題 保育者のアイデンティティ 構築のための初任期（ファーストステージ）の育ち
3. 学会等名 日本保育学会第70 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 TAZUME Hirotsugu, KOIZUMI Yuko, NAITO Tomomi
2. 発表標題 Development of "ECEC Teacher's Identity" among Japanese College Students
3. 学会等名 69th OMEP International Conference, Opatija-Croatia (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 田爪宏二(杉村伸一郎・山名裕子編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 12
3. 書名 保育の心理学(第2章「子どもの発達と環境」)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井戸 ゆかり (Ido Yukari) (60331500)	東京都市大学・人間科学部・教授 (32678)	K
研究分担者	小泉 裕子 (Koizumi Yuko) (80310465)	鎌倉女子大学・短期大学部・教授 (32705)	
研究分担者	大野 和男 (Ohno Kazuo) (40339487)	東京都市大学・人間科学部・教授 (32678)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	田爪 宏二 (Tazume Hirotsugu) (20310865)	京都教育大学・教育学部・准教授 (14302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関